

労働者の手に、取場支配権をガッチリと握ろう

日刊 動労千葉

82.9.17

No. 1148

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六、公衆電話(22)七三〇七

9/11 勝浦支部で取場集会開かれる

勝浦支部は、臨調基本答申粉碎・57・11「ダイヤ改悪」に向けて意志統一のための取場集会を9月11日、50余名にのぼる支部組合員の結集によってかちとりました。

勝浦支部通信員・発

一步も退くことなく、取場既得権を守り
ぬく体制をうち固めていこう 窪田支部長あきさつ

集会は、本部より水野副委員長長の参加を得て、鶴岡副支部長の司会によりはじめられました。

冒頭、窪田支部長より、「臨調基本答申が出され、取場既得権の剝奪、『57・11ダイヤ改悪』、検査下廻り合理化」等労働者に対する攻撃が強まっている。それは、政府・自民党が前面に出て国鉄労働者に対する攻撃、国鉄労働運動解体の攻撃にほかならない。いままでかちとってきた労働条件・取場既得権を一步も引かないで守りきる取場体制の確立が必要である。一層の団結を固めて闘っていかう」とのあいさつをうけました。

続いて、水野副委員長が、臨調答申が出された政治情勢にふれ、「軍事大国化に向けた反動攻勢とその具体的あらわれとして教科書問題、公然とした密僚の靖国神社参拝、右翼の跳梁、等がある。又、国家財政危機と国鉄赤字は同質のものであり、『国鉄再建』が国家財政立直しのためのモデルケースだとされている。だから支配者は、全体重をかけて国鉄攻撃にうって出ている理由もここにある。国鉄当局は、『一九九〇年までに国鉄25万人体制を達成する』として、『57・11ダイヤ改悪』検査下廻り民託化」にみられるように大合理化攻撃をかけてきている。そうした中で、軍マルは臨調攻撃に全面屈服し、自らの延命だけをはかっている。国鉄

当局は、取場の管理体制の確立として取場の力関係を逆転させようとしている。我々は取場の主導権をにぎり取場から反撃してゆく体制をガッチリ固めていかねばならない。若い諸君は先輩よりマル生闘争の教訓を学び叩きの先頭に立ってほしい」との報告をうけ討論に入りました。

腹をくくって決起する

活発な討論を展開

討論では「現協制度改悪問題」、「57・11ダイヤ改悪」、「夏季休暇・健康診断について」、「京葉線用業」、「下廻り検査合理化と派出検査廃止について」等の意見が出され、組合員一人一人が腹をくくって叩きに決起することを確認して、支部取場集会を終了しました。

激化する軍事大国化攻撃に反撃しよう

水野副委員長提起

オ七回動労千葉定期大会の成功をかちとろう

日時・9月30日10時〜10月1日17時

会場・千葉市・千葉グランドホテル

★取場闘争体制を一層強め、大会におけた取場討議を深めよう！ ★圧倒的傍聴を！

